株式会社 セコニック

本社　〒178-8686　東京都練馬区大泉学園町7-24-14　☎ 03-3978-2366
写真機材グループ　：〒178-8686　東京都練馬区大泉学園町7-24-14
☎ 03-3978-2366　FAX 03-3922-2144

T145710B-A

SEKONIC

デジライトF L-328

使用説明書

お買いあげありがとうございます。
この使用説明書をよくお読みになり、安全に正しくお使いください。

DIGI LITE F

SEKONIC

仕様

測定方式●入射光式、反射光式兼用
●ストロボ光および定常光用デジタル露出計
測定範囲●ストロボ光＝F1.4～90 (ISO100)
●定常光＝EV(－) 1 ～EV19 (ISO100)
くり返し精度●±0.1EV
受光部●入射光……光球、白色平板
●反射光……光角度板(受光角54°)
ビューファインダー 5° L-328VF別売
●受光部回転式　270°
●受光素子…シリコンフォトダイオード
校正定数●C＝340　K＝12.5
液晶表示
測定モード表示●⚡…………ストロボ光、コードレス測定
●⚡C………ストロボ光、コード接続測定
●表示なし…定常光測定
C…定常光でムービーコマ数表示
EV…EVモード表示
目盛の表示●ISO……3～8000(1/3SVステップ)
(各数値の表示)●TIME…ストロボ光 1～1/500秒(1TVステップ)
定常光 30分～1/8000秒(1TVステップ)
ムービー目盛 8･16･18･24･32･64･128コマ
●F値……定常光 1.0～90＋0.9AV(0.1AVステップ)
ドット表示 1～90まで0.5AVステップ
ストロボ光 1.4～90＋0.9AV(0.1AVステップ)
ドット表示 1.4～90まで0.5AVステップ
●EV……－6 ～25.9(0.1EVステップ)
その他の表示●測定範囲外　E.u(アンダー)　E.o(オーバー)
●バッテリーチェック　b.c.
使用電池●単Ⅲ乾電池(1.5V)　(JIS：LR-6、R-6)　1本
標準付属品●光球、白色平板、光角度板、ストラップ、電池
大きさ、重さ●121×64×23mm
約110g(電池含まず)

※この使用説明書に記載の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがあります。

7 アフターサービスについて

☆弊社の製品には一定の期間内無料修理をお引受けする保証書が添付されておりますので、記載事項をお確かめのうえ販売店よりお受取りください。なお保証書の再発行は致しませんので、取扱説明書と併せて大切に保管してください。

●無料保障期間などについて

①無料保障期間はお買上げ日より1ヵ年間でございます。

②保証書にお買上げ日および販売店名のないものは保証の対象になりませんので、必ずお確かめください。

③無料保証期間内でも有料修理となる場合もございますので、保証書の記載事項をお確かめください。

④保証期間経過後の修理は有料となります。また、運賃諸掛りはお客様にご負担願います。

●補修用性能部品の保有期間などについて

①補修用性能部品は5年間を目安に保有しております。したがって、本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお故障箇所によりましては期間が過ぎても修理可能の場合もありますのでサービスセンターにお問合せください。

②修理可能期間はご使用の状態や環境、お手入の状態などによって異なる場合がありますので、現品をご持参のうえお買上げ店またはサービスセンターにご相談ください。

③修理可能期間内でも浸冠水、強度のショック、その他損傷のいちじるしいもので、修理後の機能維持に問題が残ると思われますものにつきましては修理不可能となる場合があります。

●修理ご依頼時における留意事項

①修理品につきましては、故障内容を、またご指定の修理箇所があります場合には、その指定箇所をできるだけ具体的にお申し出ください。
ご指定のない場合には、各部点検をはじめ品質的、性能的に必要と認められるすべてのところを検査・調整・修理することになり、修理料金が加算される場合がありますのでご留意ください。

②修理をご依頼されたものの中には、単に電池を交換するだけで正常に作動する「故障していないもの」が見受けられます。電池の容量低下、⊕⊖の逆、定格違いなどについて、よくお確めください。

●転居の場合の手続きについて

①転居で販売店にご依頼しにくい場合は、最寄りのサービスセンターにご相談ください。

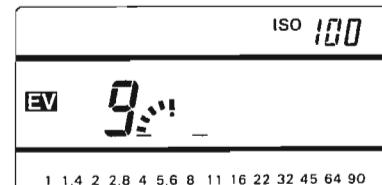
●お問合せ先について

本製品の保証、修理、使い方などのお問合せは、最寄りのサービスセンターをご利用ください。

目　次

1 各部の名称

⑬白色平板　⑭光角度板

1 EV測定モードでISO100にセットします。
2 白色平板と測定面と平行にして測光スイッチ④を押します。
3 測光表示された値で簡易対比表よりお読みとりください。

小数＼整数	−1	0	1	2	3	4	5	6	7	8
・	1.7	3.4	6.8	14	27	54	108	216	435	870
...!	2.4	4.8	9.6	19	38	76	152	300	600	1200
小数＼整数	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
・	1740	3500	7000	14000	28000	56000	111000	223000	446000	892000
...!	2400	4800	9800	19600	39400	78800	157000	315000	630000	1260000

計算で求める場合　照度(LX)＝3.4×2^{EV}
(例) 図の値では　9...!＝EV9.5
照度(LX)＝$3.4\times 2^{9.5}=3.4\times 724\fallingdotseq 2400$LXとなります。

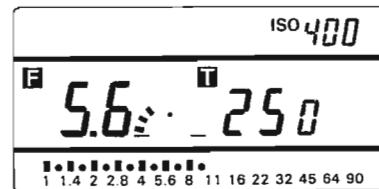
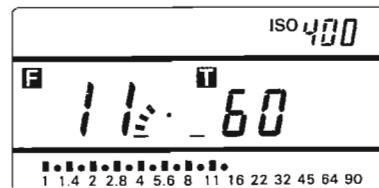
6 取扱上の注意

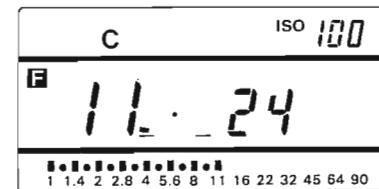
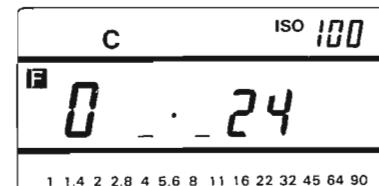
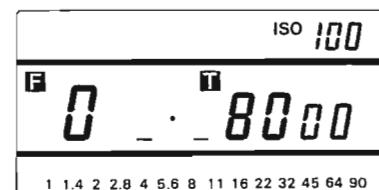
お買い上げいただいたSEKONIC DIGI LITE F L-328は多くの電子部品で構成された精密電子機器ですので、下記の点にご注意ください。

a・落下、または急激な衝撃は絶対にさけてください。
b・極度の高温、多湿な場所には保管しないでください。
c・光球、白色平板は傷がつかないように、また常に清潔に保つようにしてください。
d・余分な電池の消耗を避けるため、使用時以外は、できるだけ電源スイッチをOFFにしてください。
e・この露出計の使用温度範囲は、0℃～＋40℃です。
f・保管温度範囲は－20℃～＋60℃です。

万一故障がおきましたときには、最寄の営業所、またはサービス・センターにお持ちください。
お近くに、営業所またはサービス・センターがなく郵送される場合には厚さ3cm以上の衝撃よけパッキングに包んでから、段ボールなどで梱包してください。

測定後の演算

●測定後、ISO（フイルム感度）を変換することにより測定値の演算ができます。
●測定後、タイム変換することによりF値の演算ができます。

ムービーカメラの場合の測定

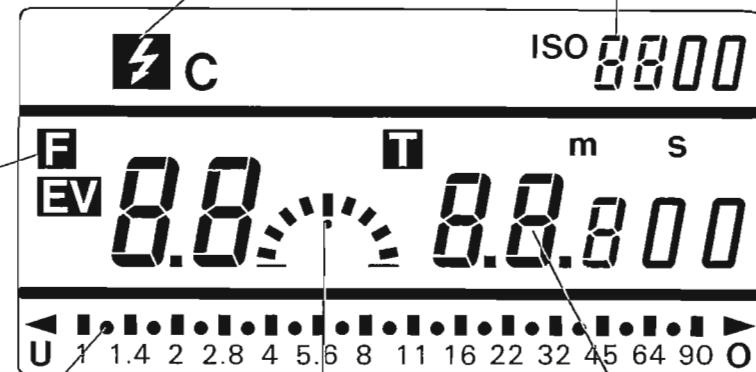
ムービーコマ数は、アップ・ダウンキー⑥の▲側を押すと、タイム1/8000のあとにコマ数が表示されます。
設定されているコマ数は、
8、16、18、24、32、64、128です。
（コマ数はシャッター開角度180°の値が表示されています。）
測光スイッチ④を押すと、そのときの明るさが表示されます。

照度（ルクス）の測定

白色平板⑬を使用して簡易照度計として、概略の照度を測定することができます。

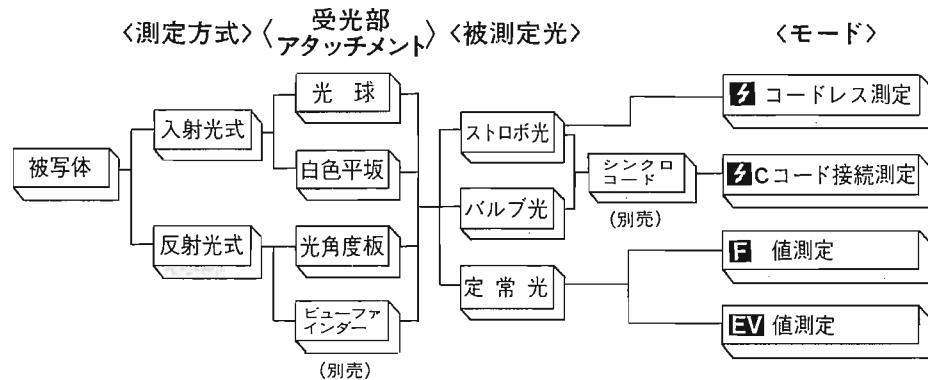
2 液晶表示

①電源スイッチをONしたときb. cの文字が表示されます
②測定F値の整数項が表示されます
定常光(1.0～90)
ストロボ光(1.4～90)
③測定EV値の整数項表示（－6～25）
④E.u、E.oのエラー表示がされます。

モード表示
①⚡コードレス測定
②⚡Cコード接続測定
③Cムービーコマ数が表示されます

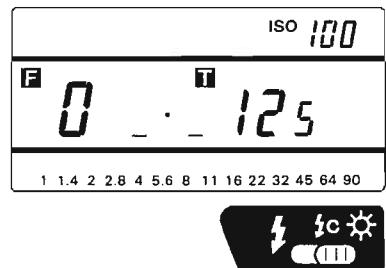
ISOキーとアップダウンスイッチの操作によりフイルム感度が表示されます
(ISO3～8000)

測定F値のデジタル部がドットで表示されます

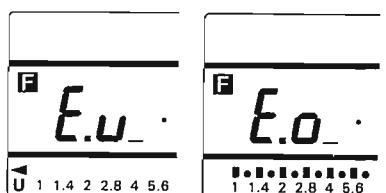
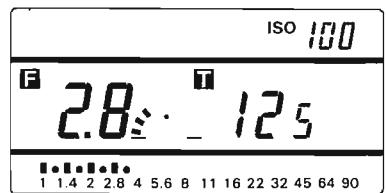
①電源スイッチONにしたとき電池容量の表示がされます
②測定F値、EV値の小数項が表示されます
（(0.1)～(0.9)）

アップダウンスイッチの操作により設定タイムが表示されます
○定常光
30m～1/8000s
mは分　sは秒
m. sなしで1/n秒表示
○ムービーコマ数は1/8000sのあとに8 16 18 24 32 64 128と表示されます
○ストロボ光
1s～1/500s

モード表示 ＼ スイッチキー操作	ストロボ光		定　常　光	
	コードレス測定 ⚡	コード接続測定 ⚡C	スチル 表示なし	ムービー C
電源スイッチをONすると	b.c文字と電池容量(b.c)を表示し、その後測定モードが表示されます。			
モード切換スイッチをスライドさせると	各モードが表示部に表示されます。			
ISOキーを押したままアップ・ダウンスイッチを押すと	ISO3～8000までのフィルム感度がセットできます。			
アップ・ダウンスイッチを押すと	1s～1/500秒までのタイムがセットできます。		30分～1/8000秒までのタイムと8 16 18 24 32 64 128のムービーコマ数がセットできます。	
F/EVキーを押すと			F ←→ EV の切換えができます。	
測光スイッチを押すと	⚡マークが点滅して測定準備がされます。その後ストロボを発光させると測光されます。	コードで接続したストロボを発光させ、その時の明るさが測光されます。	その時の明るさが明るさの変化に追従して測定されます。	

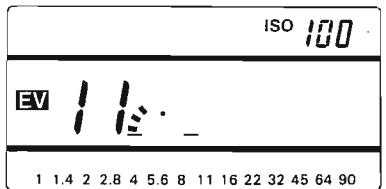
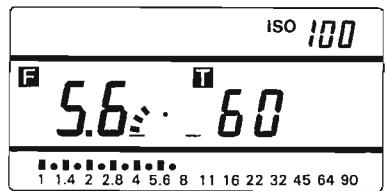
3 定常光の測定

測定の方法

1 測定の準備にしたがって、測定できる状態にセットします。(P10～P13参照)
2 測光スイッチ④を押すと、そのときの明るさがF値表示されます。

- 定常光モードでは、測光スイッチON状態では変動する明るさを連続測光していますので、測光スイッチを離した(OFF)ときのF値が表示ロックされます。
- F(絞り)値表示範囲はF1.0～F90 までです。

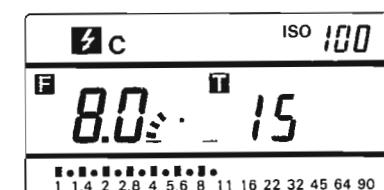
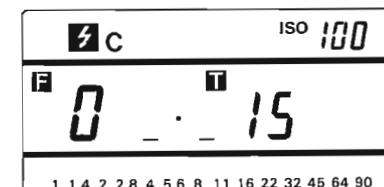
- 測定値は、デジタル部F値表示とともにドット表示がされます。なおドット表示は、$\frac{3}{10}$→0.5←$\frac{7}{10}$、$\frac{8}{10}$→0←$\frac{2}{10}$ の様に表示します。
- 測定範囲をはずれた場合はF値表示部にE.u(アンダーエラー)、E.o(オーバーエラー)の表示がされます。

F↔EVの切換について

- F/EVキー⑨を押すと、測定の前後に関係なくF値表示とEV値の表示が交互に変わります。

- 電源スイッチ⑤OFF又はオートオフ後、再度ONすると全てF値表示になります。
- EV値表示の場合はドット表示はされません。

☆タイム設定するときは、使用するカメラの同調範囲内であることが必要です。
☆測定後のタイム演算はできません。タイム変換すると測定値は消え0になります。

フラシュバルブの測定

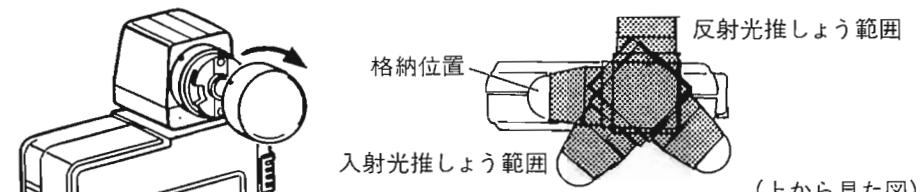
M級およびFP級のフラシュバルブの測定はコード接続モードで測定することができます。

1 測定準備にしたがってコード接続測定できる状態にセットします。(P10～P13参照)
2 シンクロコードを露出計のシンクロターミナル⑩にとりつけ、フラシュガンと接続します。
3 測光スイッチ④を押すとフラシュバルブが発光し、そのときの明るさがF値で表示されます。

☆コードレス測定、および定常光モードでは測定できません。
☆タイムは1/30以下に設定してください。
(M級バルブ1/30～1/15、FP級で1/15～1S)
☆撮影するとき、カメラのシンクロ接点はX接点にしてください。
☆シンクロターミナルにシンクロコードを取りつけたとき、フラシュバルブが発光する場合がありますので、シンクロコードを取りつけた後、フラシュバルブをフラシュガンに取りつけてください。

この露出計は、受光部アタッチメント交換方式です。測定目的に応じて各付属品を取りつけ、液晶表示部③の読み易い方向で測定してください。

受光部アタッチメントの取りつけ方

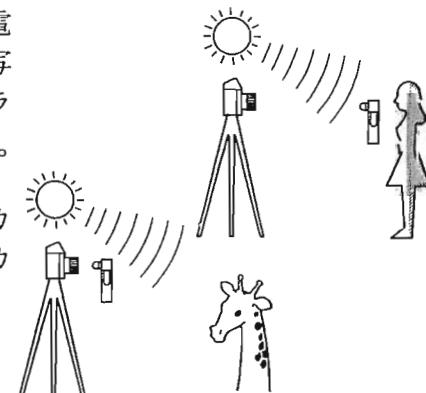
1 受光部ヘッド②の凸部に光球①等アタッチメントの凸部を合わせてはめ込みます。
2 アタッチメントを時計方向に回転させるとクリックでセットされます。

(上から見た図)

入射光式測定

●この方法は被写体に当る明るさを直接測る方法で、被写体のバックの影響を受けずに被写体に対して平均的な露出を求めるときに適しています。

1 光球①を用いて

ポートレート、その他立体的な被写体を撮影するときに用います。

●スタジオ等で人工光(ストロボ、写真電球等)で撮影するときは、かならず被写体位置に露出計をおき、光球をカメラの光軸方向に向けて測定してください。

●屋外で被写体に近ずけない場合は、カメラ位置と光線状態が同じならば、カメラ位置で測定することができます。

2 白色平板⑬を用いて

人工光で多灯ライテングするときの主光源、及び補助光源の明るさを測定して照明コントラストを調整するときや、照度（P19参照）を測定するときに用います。

照明コントラストの測定の方法

1 被写体位置で白色平板を主光源に向けて測定し、そのときの明るさを読みとります。
2 次に被写体位置で白色平板を補助光源に向けて測定します。
（このときは主光源を消してください）
3 主光源と補助光源の測定値差よりコントラスト比を求めます。

測定値の差	コントラスト比
1	2：1
1½	3：1
2	4：1
3	8：1
4	16：1
5	32：1

●定常光モードのときは EV 値で測定すると便利です。
(例) 主光源 EV 12.4 _補助光源で EV 10.5 _の場合
12.4−10.5＝1.9EV差　コントラスト比は約4：1となります。
●F値で測定の場合はドット表示部のドット数の差より求めると便利です。
(例) 主光源 F 16 _ 補助光源 F 8.0 _の場合

■●■●■●■●■●■●■●　…………補助光源のとき
■●■●■●■●■●■●■●■●■●　……主光源のとき
1 1.4 2 2.8 4 5.6 8 11 16 22 32 45 64 90

|←　→| 2絞り差のため、コントラスト比は4：1となります。

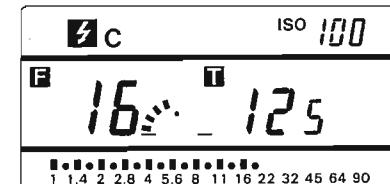
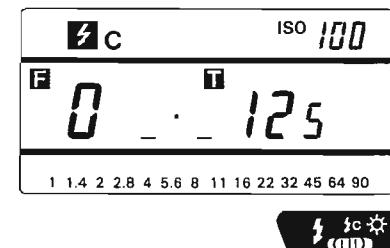
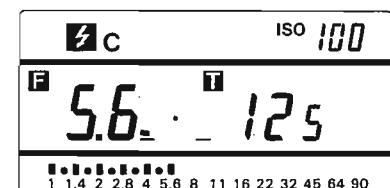
4 露出の決定は、主光源と補助光源を点灯し光球を使用して測定します。

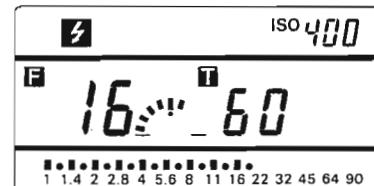
2 ストロボ光・シンクロコード接続測定

●手もとの操作でストロボを発光させて測定したいときや、コードレスではストロボを発光させても露出計が感じないときは、露出計とストロボをシンクロコードで接続して測定します。

測定の方法

1 測定の準備にしたがってコード接続測定できる状態にセットします。（P10～P13参照）
2 シンクロコードを露出計のシンクロターミナルに取りつけ、ストロボと接続します。

3 測光スイッチ④を押すとストロボが発光し、そのときの明るさがF値で表示されます。
4 再度測定するときは、そのまま測光スイッチを押してください。新しいF値が表示されます。

☆シンクロターミナルにシンクロコードを接続するとき、また電源スイッチをOFFからONにするとき、ストロボによっては発光するときがありますので、ご注意ください。
☆シンクロコードを使用して測定する場合、ストロボによっては発光しないことがあります。(極端にトリガ電圧を低くしているストロボなど）この場合は「コードレス測定」で測定してください。

ISO変換による測定後の演算について

●測定後、ISOの変換により測定値の演算ができます。
(例)ISO 100→400
F値 8.0→16
の様に演算されます。
●ストロボ光・コード接続モードでも同じように演算ができます。

☆測定後のタイム演算はできません。タイムを変換すると測定値は消え0になります。

☆タイムを設定するときは、使用するカメラの同調範囲内であることが必要です。

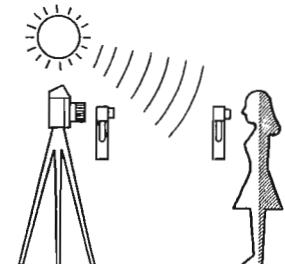
☆日中シンクロなど、コードレス測定モードでは周囲の明るさによって測光できない場合があります。このようなときは、コード接続測定モードにしてシンクロコードを接続して測定してください。

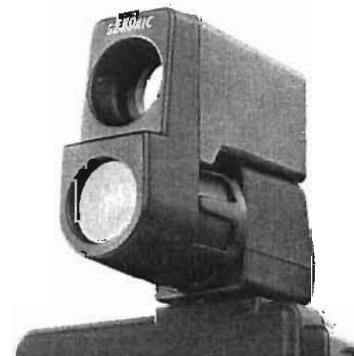
☆ラビット型螢光灯や特殊な照明下では、ストロボを発光しないのに動作することがあります。このようなときは、コード接続測定モードにしてシンクロコードを接続して測定してください。

反射光式測定

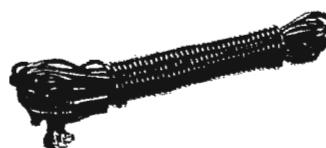
この方法は被写体からの反射光（輝度）を測定する方法です。入射光式では、測定困難な発光体や透過光の測定及び被写体輝度の相対比（被写体コントラスト）を測るときに用います。

1 光角度板⑭を用いて

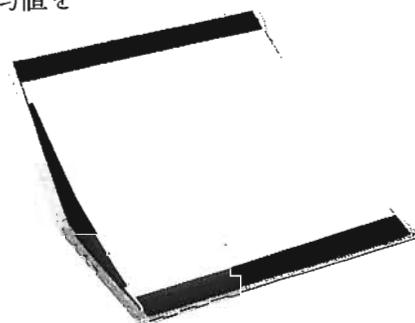
●カメラ位置、またはカメラ方向から被写体の測定したい部分に光角度板を正しく向けて測定してください。
●カメラ位置で測定すると被写体全体の平均測定になります。
●部分測定するときは、できるだけ被写体の主要部分に近ずいて測定してください。
(露出計等の影が測定部分に入らないように注意してください)

2 ビューファインダー5°L-328VFを用いて 別売

●このビューファインダーをつけて測定すると、カメラ位置で被写体の主要部分をファインダーで確認しながら測定できます。
●受光角は5°と狭いので、被写体のコントラスト等を測定するとき便利です。
詳しくはビューファインダー5° L-328VFの説明書をご覧下さい。

シンクロコード(⚡cのときに用います)別売

●露出計とストロボを接続してストロボ光を測定するときに使用します。このシンクロコードは長さ5mで3つのプラグを持ち、露出計とストロボ、およびカメラと接続できるので差し換える必要はありません。また露出計側プラグはロック機構付となっています。

ストロボ　カメラ

セコニックスタンダードリフレクター(標準反射板)別売

●反射光式の露出計で被写体の平均値を測定するのに便利です。
サイズ：69×117mm

測定

ストロボ光・コードレス測定

(シンクロコードを使用しないで測定する場合)

測定の方法

1 測定の準備にしたがって測定できる状態にセットします。(P10〜P13)

2 測光スイッチ④を押すと⚡マークが点滅し、測光待機状態になります。

3 ストロボを発光させると自動的に測定し、そのときの明るさが、F値で表示されます。

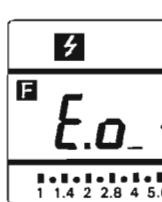
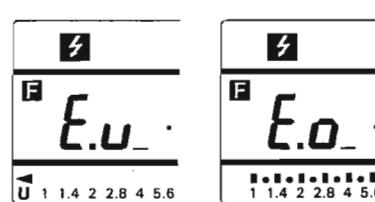
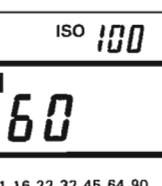
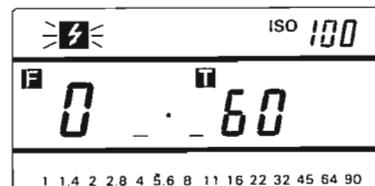
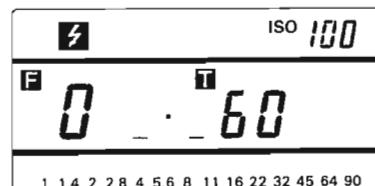
4 再度、測定するときは、測光スイッチを押して測定値を0にし⚡マークの点滅をさせてください。

5 ⚡マークの点滅は、測光スイッチを押すと約90秒間持続されます。
⚡マークが点滅していないと測定はできません。

●F(絞り)値表示範囲はF1.4〜90までです。

●測定値は、デジタル部F値表示とともにドット表示がされます。なおドット表示は、3/10→0.5←7/10、8/10→0←2/10の様に表示します。

●測定範囲を外れた場合は、E.u(アンダーエラー)、E.o(オーバーエラー)が表示されます。

F E.o 1 1.4 2 2.8 4 5.6

リーされています。

●設定されたISOの数値は、モード切り換えを行っても変換されません。

4 タイム(T)を合せます。

●電源スイッチ⑤ONの状態でアップダウンスイッチ⑥の▲または▼側を押して設定したいタイム(シャッター速度)に合せます。

(例)右の中図は、上図よりアップダウンスイッチの▼(ダウン)側を2度押して変換した図です。

●アップ・ダウンスイッチの▲、または▼側を1秒以上押すと、押している間タイムは連続変換されます。

●タイムはストロボ光測定モード(⚡、⚡c)と定常光測定モードで各々別に設定できます。

●タイム設定できる数値

ストロボ光測定モード(⚡、⚡c):
1～1/500秒

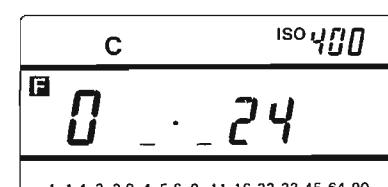
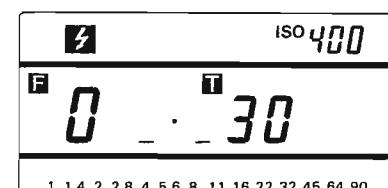
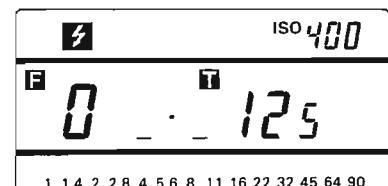
定常光測定モード:30分～1/8000秒

定常光ムービコマ数:

1/8000秒のあとに8 16 18 24 32 64 128がセットされています。(シャッター開角度180°の場合)

●設定したタイムは、電源スイッチOFFでも電池が有効な間は各々メモリーされています。

5 準備及び測定

準備

電池を入れます

電池は単Ⅲ乾電池(LR-6又はR6)1.5V 1本を使用します。

1 電池ふた⑪の凹凸部に指をかけ押しながら矢印の方向に引いてはずします。

2 電池の⊕⊖を電池ケース内の表示に合せて⊖側を先に入れ⊖側に指で押すようにして挿入します。

3 電池ふたを本体に合せ、スライドさせて取りつけます。

4 電源スイッチ⑤を上側に押してONすると液晶表示部③にb.c文字と電池容量が表示され、そのあと測定モードに切換ります。

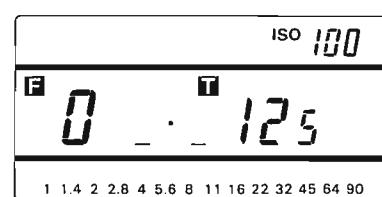
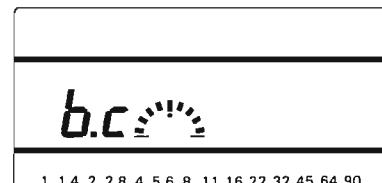
〔電池容量が少なくなるとドット表示が少なくなり、不足するとb.c文字の点滅、又は表示がされません。〕

5 ONの状態で放置しますとオートオフ機能が働き約4分後に自動的に液晶表示が消えます。

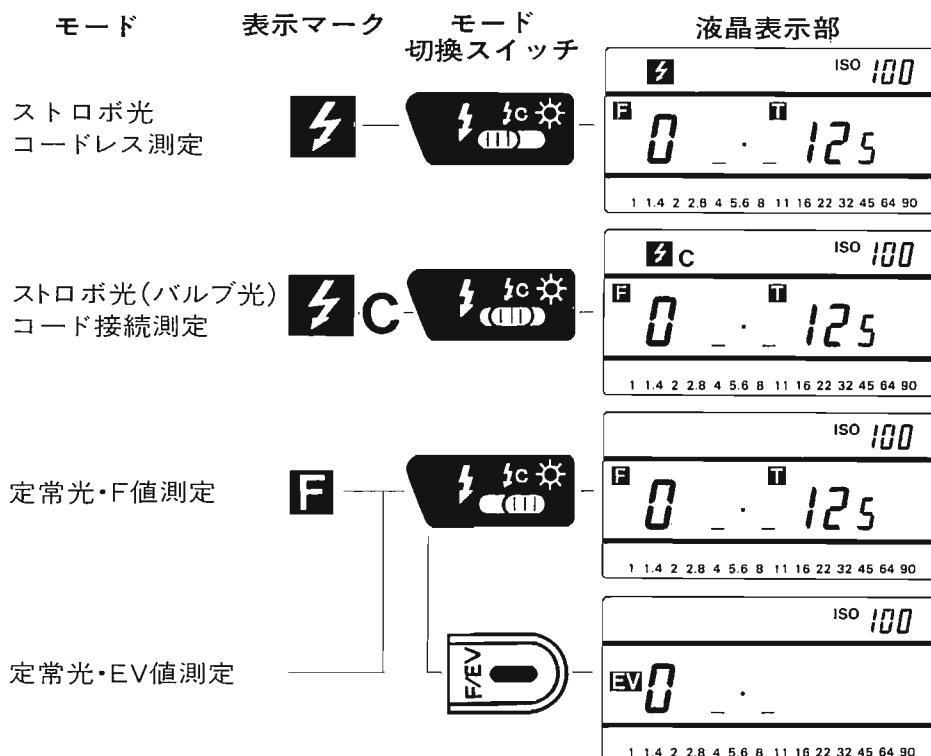
☆オートオフ後再度使用するとき、及び電源スイッチをON・OFF・ONと操作するときは、OFFで2秒ほどおいて次にONしてください。

☆充電式電池(KR-AA)は使用できません。

☆電池を入れるとき電池の接点の汚れをふいてください。

☆電池の取り外しは⊕側に指先をかけて⊖側に押すようにして取外してください。⊖側より外すと接片をいためることがあります。

☆電圧が低下した電池は、一時的にb.c表示がされても、異常な表示をすることがあります。このようなときは新しい電池と取りかえてください。
☆測光中、液晶表示部に表示された文字全部が点滅することが有ります。このときは電池の容量不足ですので新しい電池と取りかえてください。

2 測定モードを決めます。

測定モードはストロボ光のコードレス測定、コード接続測定および定常光測定（F値、EV値）のモードがあります。測定モードに応じて切り換えてください。

●モード切換スイッチ⑦を各測定モードに合せてセットします。

●測定モードが液晶表示部③に表示されます。

●モード切換スイッチは電源ON、OFFに関係なく切り換えができます。

定常光測定モードで、F値、EV値の測定モードがあります。
●F/EVキー⑨を押すとF⇔EVモード表示が交互に切り換えできます。

●EV値測定モードで電源スイッチOFFまたは、オートオフ後再度ONのときおよびモード切換スイッチを切換えた場合は、全てF値測定モードになります。

3 フイルム感度(ISO)を合せます。

●電源スイッチ⑤ONの状態でISOキー⑧を押したままアップダウンスイッチ⑥の操作でフイルム感度を変換します。(ISO3～8000)
(例)右の下図は、上図よりISOキーを押したままアップダウンスイッチの▲側を6回押して変換した図です。
●ISOキーを押したまま、アップダウンスイッチの▲、または▼側を1秒以上押すと、押している間ISOの数値が連続変換されます。
●設置されたISOの数値は、電源スイッチをOFFにしても電池が有効な間メモ